

近況ご報告

琉球大学医学部泌尿器科 熊本赤十字病院後期研修医
西田 翔 (27期生)

寒さも一段と厳しくなってきましたが、琉球大学医学部同窓会の皆様如何お過ごしでしょうか。琉球大学医学部医学科27期生の西田翔と申します。この度同窓会誌への寄稿依頼を頂き、誠に稚拙ではありますが私の近況をご報告させていただきます。

初期研修を母校である琉球大学医学部付属病院で修了した後、2015年4月より外科後期研修医として熊本赤十字病院にて勤務しております。病床数は490床、年間救急外来患者総数65,000件、年間救急車搬送数8,000件の急性期病院であり、ドクターヘリを擁した救命救急センターとして地域医療の中核を担っています。また「日本赤十字社」発祥の地として、紛争地域への医療救援派遣を積極的に行うと共に、九州地区で有数の腎移植症例数を誇る国際性の高い病院であるといえます。

学生より腎移植に関心を持ち、初期研修2年目で参加させて頂いた腎移植学会にて偶然のご縁を頂きました。腎移植に携わりながら外科としての基礎修練をしたいという希望のもと現在の研修に至ります。研修開始当初は新しい環境とスピード感に戸惑い初期研修開始当初を思い出すこともありましたが、モチベーションの高い先輩・同期・後輩の存在と共に、厳しさとともに温かく指導して下さるスタッフの中で現在は充実した研修生活を送っております。

医師として社会に出て3年弱。諸先輩方と比べると大変短い時間ではありますが、その中でも感じずにいられないのが「ご縁」という言葉です。「人」との関わりが強い医師という職業の中で常にこの言葉の有難みを実感しています。現在の研修に至るのも学会参加の機会を下さった先生方と、学会を機に私を起用して下さった赤十字病院の先生との「ご縁」の賜物です。その頂いた「ご縁」を大切に、自己の目標に向けて研鑽を積んでいきたいと思っています。



今回寄稿させて頂いたのも何かの「ご縁」と感じております。経験も浅く今後も様々な面で先輩方よりご指導を頂く機会があると共に、自分自身も後輩のために何か役に立てればと思っております。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈りしつつ近況報告とさせていただきます。



研修医2年目の近況

東京大学医学部附属病院 研修医
眞喜志 直子 (28期生)



こんにちは。28期生で、現在、東京大学医学部附属病院（以下東大病院）研修医2年目の眞喜志直子です。同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

私が研修をしている東大病院はとにかく人数が多い（研修医は1学年100人以上！）のですが、その出自は多彩です。その各々が目標を持って日々の仕事、勉強、遊びに励んでいます。そんな愉快的仲間たちに囲まれて、私はというと、研修医向けの勉強会の運営（と自炊）に励んでいます。仕事にせよ、勉強にせよ、何か一つやると必ずフィードバックがある環境にあるので、とても恵まれた環境にあると思います。私も2年目になり、可愛い1年目の後輩ができ、採血やルート取りで指導する場面も出てきたのですが、自分が先輩にさせていただいたように、出来た・出来なかったに関わらずフィードバックを行うことは自分の勉強も兼ねて心がけています。

また東大病院は理念に「臨床医学の発展と医療人の育成に努め、個々の患者に最適な医療を提供する」とあるように研究が第一に挙げられるほどであり、様々な疾患に対する自主臨床試験も行われており、研修医の段階でもその現場に関わることができるので、学生のころにはピンとこなかった研究という分野も非常に身近に感じられます。加えて大学院に進学する同期も多いので、自分もいずれは、と思います。

学会や地方会に参加したり、勉強会で発表する機会にも恵まれました。日々の業務と並行して発表の準備をするのは辛くて、何度か投げ出しそうになりましたが、熱心な先生方の指導のおかげで発表までこぎ着けたものの、質疑応答でうまく答えられなかったのも今となってはいい思い出です。

仕事や勉強だけでなく、プライベートでも東京ならではのことを楽しんでいます。趣味である読書で人と繋がる場として、読書会に参加したりして病院外の人とも関わりを持っています。また、スカイツリーや国立美術館も比較的近いので、休日には友達と遊びに行ったりしています。

今、私がいる環境にはチャンスも勉強することも何でもあると思います。そのチャンスを掴むのも、活かすのもすべては自分次第であると言いつつも、自分がどうなりたいたいのかを考えながら、貪欲に様々なことに挑戦する気持ちを持ち続けたいと思います。

最後になりましたが、諸先輩方、同期・後輩の皆様のご健康を祈念して筆をおきたいと思っています。